

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2024-010
2.研究課題名	近赤外光イメージング装置（NIRS）による脳機能計測を用いた味覚増強現象の研究
3.研究期間	令和7年2月（倫理委員会承認後）～ 令和9年 3月31日
4.研究の概要	意義・目的 日本をはじめとする先進国においては、食塩や糖分などの栄養素の過剰摂取による健康障害が問題となっており、食物の味やおいしさを保ちながら、食塩や糖分の摂取量を抑える方法が求められている。そのため、特定の味覚（塩味など）が、その呈味物質以外の要因によって増強される現象の応用が期待されている。 本研究は、味覚の増強現象に関わる様々な食物刺激を摂取した際の官能評価の実施に加え、脳活動および耳下腺（大唾液腺の一つ）の活動を計測することで、味覚増強現象に関連する脳部位の検討および増強現象の生理学的な裏付けをおこなうことを目的とする。脳活動および耳下腺活動の生理計測には、安全性、行動制限や時空間分解能などを加味し、近赤外光イメージング装置「NIRS」を用いて評価を実施する。 方法 東北大学文学研究科の大学生・大学院生男女計20名及び株式会社ニッスイにて食品の官能評価に従事している専門パネル10名を口頭により募集する。食物や特定の味物質に対するアレルギーあるいは嫌悪がある場合は、実験対象者とはしない。実験の案内は実施担当者（大学院生）の口頭による告知及び実験内容を記載した広告等を用いて行う。また、実験者及び対象者に対して入念な感染症対策を行う。 近赤外光イメージング装置（NIRS）のうち、LightNIRS（島津）を脳活動計測に用い、食物刺激を摂取しているときの脳活動（側頭部）および必要な場合には耳下腺の活動（Hitachi WOT-20）を計測する。すべての情報は連結可能な形で匿名化される。実験参加にあたり、1500円の図書カードを謝礼として支払う。 問い合わせ・苦情等の窓口 文学研究科心理研究室（022-795-6048）